

# 「岳陽」と共に

第 14 号

発行日  
2023.10. 30  
編集・発行  
井上講四／堂本彰夫  
※連絡先  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市  
大謝名 3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail:  
gakuyou17@outlook.jp

○非情な(解せない?) 采配?そこには何があったのか!!

随分日が経ってしまったが、過日の、女子世界バレーボール選手権(オリンピック代表予選)。日本は、結局ブラジルにも負け、残念ながら、今回での代表決定には至らなかった!そして、そこにおいて、最後の二セットは、これまで中心選手(主将でもあった!)として奮闘してきた古賀紗理奈選手の姿がなかった(ネット上で騒がれていた!!)!

何か、第3セットの終了時点でトラブルがあったものかと、その時は思うだけであったが、試合終了後のインタビューでは、自分自身は、調子は悪くなかった!その理由(不起用)については、監督に聞いてくれというようなコメントであった!問題は、その後の、真鍋監督の言である(決定率、効果率、返球率が下がっており、ある意味交代は、理の当然だ!)。これは、下衆の勘繰りかもしれないが、今回の成績(実力?)でも明らかのように、たとえ今回の機会出場権をとったとしても、今(まで)の古賀選手(中心のチーム)であれば、おそらくメダル獲得は困難!!監督は、そう思ってたの采配ではなかったのかということである!!

そこで注目されるのが、その非情な(解せない?)扱いを受けた古賀選手の、これからの踏ん張りである!!試合後の涙もなかったが(采配への怒り?負けた情けなさ?)、とにかく、その悔しさを、どのように晴らすのか?そこが重要であるということであり、それがまた、監督の本当の思いなのかかもしれない!!そんなことを、思った次第である!

○研究者としての倫理?今更質されても!!

これも、過日のことであるが、半分笑い話?として、ここで書き記しておくのも一興かな?とも思い、以下、少し書いておきたい!実は、ひよんなことから、思いも寄らない行動(勉強?)を余儀なくされたのである!

どんな行動(勉強?)かと言うと、何と、あの独立行政法人日本学術振興会の「研究倫理eラーニング」の受講である!最近?、岡山にあるK大学のS教授(二応教え子という)ことで、S君と呼んでもいいが!から、研究協力者としての依頼(本当は、私のボケ防止のため?)が増えているが、今後、それを行うためには、私の適格証明?が必要だということ、指定の「研究倫理eラーニング」の受講を課されたのである!

別に、私は、そうしたことまでして、彼の研究協力者にはなりたくないのだから(可能なことは、すべて協力するつもりである!)、科研費等の実施にあたっては、そのことは必至(義務)であるということなのである!

折角の、彼からの依頼でもあったので、むげに断ることも出来ず(当然、最初は断ったが!)、結局は、引き受けた次第であるが、その受講の手間暇(サイトへの入室手続きが、自分でも情けないくらいにかかり、改めて彼の依頼を悔やんだことを(笑。本当である!)、ここでは、是非とも名状しておきたいということである!

ということ、修了試験?には、無事合格することは出来たが、私が、内容よりは、パネル操作?に難渋した高齢者、そして、今更、研究者としての倫理を質されても?と思った、元研究者でもあったということである!

○小さな山の林立!そこでの“お山の大将?”だけでは!!

さて、全国には(もちろん沖縄にも!)、地域のため、みんなのために、自分の人生を賭けて?頑張っている人達がいる!しかしながら、それは、ある意味「小さな山の林立」となっていないか!!こんなことを言えば、彼らへの冒険ともなるが、もう少し、その山々が互いに力を出し合い、さらなる山(大きな山?)とならないか?そういうことである!

そんな中、その「大きな山?」で、私には、ある意味大変懐かしくもあり、複雑な思いを抱かせるものがある!!それは、九州のM先生達のことである!そして、彼らは、まさに「大きな山」であり、その中心M先生は、学会・先輩の中では唯一とも言える、本当に敬愛して止まない人であった(まだご存命のはずである!)!当地での研究会の立ち上げ人であり、今でも理論的、精神的な支柱として活躍されていると思うが、私も、沖縄に来てから、年1回当地で開催されるその会には、毎回参加していた(「世話人」として)!要は、彼らは、私達にとっては、ここで言う「大きな山」であったということである(その影響力は、それこそ偉大!)!!

ちなみに、それには、実に多くの事例発表者(手弁当参加)、そしてゼミ生も連れていった。余談ではあるが、私自身は、事例発表等よりは、友人達との再会、夜の懇親会やその後の三次会?が、何よりの楽しみであった(元気を貰う、回復させる?数少ない機会であった!)!最早時効ではあるので、その時々私から誘われた人は、大変申し訳ないが、山車?であったということもある!!!

ただ、ここで書いておきたいことは、たとえばどんなに「大きな山?」であっても、そこだけの、いわゆる“お山の大将”であってはいけないということである!実は、私も、M先生とは比べものにならないが(比べること自体不適?)、どこかの地の、小さな“お山の大将”?であったかもしれない!!とにかく、みんなが、そればかりではいけないということである!(井上)

『こんなこと(祭り?)は、やはり必要なのだ!!』

いきなりであるが、何とも微笑ましい、そして、内心ではホッとする?テレビ番組であった!しかも、それは、あの大都会東京、しかも新宿の話である!ちなみに、関係のネット記事では、次のようになっていた! 大都会の高層ビルにこだまする熱唱。この夏、会社員たちが

パフォーマンスを競う大会が4年ぶりに復活した。出場者たちは何のためにステージに立ち、何を手にしたのか?新宿・副都心で50年近く続くサラリーマンの祭典「会社対抗のど自慢大会」。会社のプライドをかけてハイレベルな歌とパフォーマンスが繰り広げられる。4年ぶりとなる今回、出場者たちには大会にかけるそれぞれの思いがあった。コロナ過で就職した2年目社員は上司や同僚との会話のきっかけを作りたいとステージへ。出場希望者が見つからない会社では、常務が驚きの選択を。働き方改革の時代に、会社でのど自慢に出る意味とは?10月1日放送分)

ところで、この番組は、NHKの「Dear」にっぽん」という番組であるが、この番組の趣旨は、「この時代をどう生きていったらいいのだろうか?いま、多くの人が不安を抱えたり迷ったりしながら生きています。2020年4月にスタートしたDearにっぽんは、日本各地でひたむきに生きる人たちの取材者が入り、今の時代を生きていくヒントや、未来への希望を探し、あなたに届ける番組です。」とある。また、「日本各地の『いま』をひたむきに生きる人たちが見つめ、「大切なもの」をあなたに届けるドキュメンタリー」ともある!

ということ、今回のネタ(人間模様)は、時代の最先端を行く人達のところ、すなわち新宿の話である!しかしながら、考えてみれば、それは、ある意味時代の反転現象、言い換えれば、人間社会の重要なものが復活している!!そう言えるのかもれない(自覚しているかどうかは分からないが?)!!とにかく、やはりそういうことは必要なのだ!!頑張れ!ひたむきに生きる人達!!

○「今」、それぞれの「存在と時間」の中で!!

一方でもた、さらなる悲劇(中東地域)が加わっている!しかし、今の私達?には、眼前の「それぞれ」があるだけである!ハイデガー風に言えば(ただし、深くは分かっていない)、そこには、それぞれの「存在と時間」があり、その「今」は、それぞれの、これまで(過去)の結果であり、これから(未来)の原因でもあるということである!!

いずれにしても、問題は、個人と社会/集団全体(国または世界)の「今」の不整合?である!個々人には、折角生まれてきたのだから、そこで生きる意味や目的を見つけ、健気に生きよ!そのようなことかもしれないが、残念ながら、現実の社会(世界)は、往々にしてそれを許さない!!ただし、そうは言っても、孤独(孤立)ではダメで、家族は当然であるが、他者、友人や同僚の存在や、それとの関わりが重要であるということだけははっきりしている!!それを示したのが、いみじくも上段の話であるが、その逆の、哀しい出来事も、残念ながら多いのでもある!!

＜短歌に託して秋来る!物思ふ季節!そはいかに?!＞

- ・ 監督の 思いや計らい? 結果がすべてだが それだけでもなく!!
- ・ 研究者としての倫理? 今更言われても どうしようもなし!!
- ・ それぞれの小山 林立だけでは ダメなのだ! 力を合わせて 大山にならなければ!!
- ・ やはり祭りは 必要なのだ! そこに 人との交わり あればこそ!!
- ・ 存在と時間 せめて己の 生きる意味 ぞを知らずば ただの空言?!

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕④

○「倭国大乱」は、「準備されたストーリー」に絶対投影されている!! 先号でも述べたが、現在、ネット記事(ブログを含む)やYoutubeの動画で、これまで知らなかった、分らなかった情報(新知識)ただし、その真偽自体は、多くは保留!に、それこそ多種多様に接している!そして、大いなる刺激を受けてもいる(特に、「神話」や、そこにおける「神々」の正体及びその関係等の解明?)。ある意味、見事なものである!!

そんな中、私自身の興味・関心(議題)は、「記紀」(とりわけ「日本書紀」)においては、ある意味「最初から」、そうした神話と神々の関係等には「準備されたストーリー」があったということは、自分なりに推察してきているところであるが、問題は、その「準備されたストーリー」とは、果たしてどのようなものであったのかということになる!!

ただし、このコーナーでは、それとの関係で言えば、まずは、『魏志』等が記している、かの「倭国大乱の世紀志」が、そこに、どのように組み込まれているのかということが、重要な注目点となることは言うまでもない!!何故なら、その「倭国大乱」の結果、少なくとも北部九州では、それまでの、「倭奴(邪)国」(後漢から印綬を中心とする、言わば「旧倭国(連合)」から、「邪馬台国」(魏魏倭志を盟主とする、言わば「新倭国(連合)」が出現したということが、事実として考えられるからである!ちなみに、その「倭国大乱」であるが、北部九州だけのそれを指すのか、あるいは西日本全体(一部東近辺までを含む)を巻き込んだものを指すのか、それについては、まだまだはっきりしない(ただ「魏志」のそれは、その記述範囲からすれば、北部九州でのそれを指していたと考えられる!!)!!

しかし、いずれにしても、その「大乱」の後に、「卑弥呼」を共立した勢力(「新倭国(連合)」が、「邪馬台国」を王都として、それまでの、倭奴(邪)国を中心とする「旧倭国(連合)」から、その政権を奪取したということになるので、その前後の、諸勢力の攻防、それに伴う人々の移動・進出の経緯が、かの「準備されたストーリー」に投影されていることは、絶対に間違いない!!そういうことでもある!! (堂本)

＜編集後記＞沖繩も、かの湿気から解放され、それなりの秋となった!我が岳陽舎の二階ベランダから見える「東シナ海」の蒼も素敵である!このまま季節の移ろいを堪能したいものである! 古代史の方は、やっと佳境?に入れそうである!! (井上/堂本)